

令和6年度 第2回旭川市博物館協議会議事録

日 時：令和7年1月23日（木） 午後6時から午後7時まで

場 所：旭川市博物館 郷土学習室

出席委員：佐藤委員，武田委員，辻並委員，古川委員，石田委員，奥寺委員，川村委員，坪坂委員，
大友委員 (以上，9名)

会議の公開・非公開の別：公開

傍聴者の数：なし

(次 第)

- 1 開会
- 2 社会教育部長あいさつ
- 3 会長あいさつ
- 4 議事
 - (1) 令和6年度上半期事業実績について
 - (2) 令和7年度事業方針（案）について
 - (3) その他
- 5 閉会

【議事内容（要約）】

(1) 令和6年度上半期事業実績について	
事務局	資料の内容について説明
会 長	意見や質問はあるか。
委員	海外からのツアー客が博物館に立ち寄ってくれていると聞いたが、ツアーのコースに組み込んでもらえた要因は何かあるのか。
事務局	博物館へ来ることを目的としているというよりは、行先から行先への経由地として選んでもらっているようである。
委員	向かいに道の駅もあるし、立ち寄り先として良いところだと知られていけば、今後利用するツアーは増えるのではないかなと思う。
委員	来館者が増えているということだが、博物館内部のキャパシティ的にはどうなのだろうか。常設展の入場者数が増えていくことについて問題はないのか。
事務局	それほど展示室内が混み合っているということはない。同じ時間に集中せずに、9時5時までの時間内で分散して来てくれているので混雑して展示が見づらいという状況は起きていない。
委員	海外の方が来館するときは入館料を無料にしているのか。
事務局	していない。通常料金である。20名以上だと団体割引となるが、そうでなければ通常料金である。
委員	富良野のラベンダーは入場無料で観光バスが何台も停まる。日本人客も海外客もどんどん来る。入場無料だったらツアー会社も博物館にもっときてくれるんじゃないかなと思う。それは難しいのか。
事務局	無料というのは難しい。
委員	国際交流として中国・韓国・ロシアからホームステイ事業があったが、そのときにホームステイしている子たちが博物館を見学していた。コロナがあったので、ホームステイも中断していたと思うが、復活したのだろうか。都市交流課から話はないか。
事務局	都市交流課からホームステイしている子どもたちの見学の話はないが、海外からお客様が来た時に解説してほしいという依頼は来る。
委員	先ほど英語表記についてお話があったと思うが、ほかの言語については博物館としてどのようなアクションをとるのか。私の会社でも今海外からの技能実習生がたくさん日本に来ていて、旭川にも3～5年の滞在予定で来ているのだが、そういう方々にも旭川のことを知ってもらうのが良いと思う。先日、仕事でウズベキスタンに行って、そこで3人の実習生を決定したが、彼らは旭川のことを全く知らない。そういう方々に来ていただければと思う。 また、国に帰った時に旭川がどういう街だったかというアピールをしてもらえば、英語圏だけでなくアジアの人たちにもアピールできるメリットがある。 今後の対応はどうしていくつもりか聞きたい。
事務局	展示室に置いているハンドアウト資料の一部は二次元バーコードを読み込んで英語、中国語（繁体字、簡体字）、韓国語、タイ語に翻訳したものを読むことができるようにしている。今年は観光庁の事業を活用して英語の解説文をネイティブのライターに書いてもらった。解説文を英訳するのではなく、海外からのお客様が知りたいことをわかりやすく書いた英語解説文を作成するという事業である。1月末に英語翻訳文が出来上がってくる予定。それを二次元バーコードにしてスマートフォンで読み取れるように掲示する。英語圏の方でなくても英語を理解できる方は多くいると思うので、多数の人たちに対応できると考えている。 しかし、さらに中国語や韓国語もあった方が良いと思うので、来年度の観光庁の事業（今年度作った英語解説文を中国語や韓国語にするというもの）があるので、それに手を上げたいと思っている。選定されたら中国語や韓国語のわかりやすい解説文を作成できると思う。
委員	旭川にアジアナ航空が定期就航したので、またお客様が増えると思うが、それに対しても期待したいと思う。
委員	韓国からのお客様がどのくらい展示内容を理解できているか。先ほどの説明のように翻訳された解説文もあるので理解できる人もいるかもしれない。もうひとつはどれくらいの時間、博物館に滞在しているのか。展示室を見るのには時間がとてもかかる。見学にどれくらいの時間をかけていて、そしてどんな感想を持っているのか、何か知るすべがあると良いと思うが、いかがか。

事務局	ツアーで来ている韓国旅行客は、見学の時間が決まっており、長い時間滞在することはない。30分ほどで帰ってしまう。現在は韓国語の解説文もないし、英語のわかりやすい解説文もないので、雰囲気だけを感じてもらっているように思う。博物館リーフレットの中に各階展示室の説明文があるが、これの韓国語訳は用意しており、何を展示している博物館なのかということはお知らせできている。 ツアーではない外国人旅行者も多数来館していて、そういった方の中には長い時間かけて見学している方が多くいる。スマートフォンの翻訳機能を使ってキャプションを読みながら見学している方もいる。
委員	海外観光客の発信力はすごいものがあるので、博物館にいい印象を持ってもらってすぐ発信してもらい、また誰かを呼び込むという良い循環ができたらいいいのかなと思う。
委員	アイヌ語地名ツアーは2回実施して11人参加だが、こういった形で実施しているのか。博物館から出発するという形なのか。
事務局	博物館からバスに乗って出発して、アイヌ語地名のポイント、ポイントでバスを降りて、解説を聞くという形で実施している。
委員	せっかく良い事業なのに参加者が少ないのがもったいない。 2回は違う内容だったのか。
事務局	同じ内容である。
委員	地名ツアーの所要時間はどのくらいなのか。
事務局	2時間ほどである。 今年は神居古潭のアイヌ語地名のポイント数か所をめぐるツアーだった。
委員	地名ツアーをもっと周知したほうが良い。広報誌でお知らせするほかに何か方法があればよいと思う。
委員	参加費用はかかるのか。
事務局	保険料として50円いただいている。
委員	たった50円で行けるのか。
委員	ガイドは誰だったのか。
事務局	今年は副館長のガイドだった。毎年博物館職員がガイドをしている。
委員	ぜひこのような案件を委員にも紹介したらよい。
委員	博物館では本年度あとのような事業を計画しているのか。
事務局	2月11日にミュージアムカレッジがある。開村前後の旭川をテーマに離宮計画と永山屯田について解説する講演会である。当館の副館長が講師をする。 2月15日には企画展開関連講座として「アイヌ文化における川魚 マレクという漁具～伝承者育成事業の経験より」を開催する。講師は国立アイヌ民族博物館研究主査中井貴規氏である。中井氏は旭川出身の方である。良いお話が聞けると思うのでぜひ参加してほしい。 まだチラシはできていないが、3月2日にはアイヌ語地名に関する講演会も開催する。 3月5日と12日にはアイヌ文様刺繍の2回連続の講座を開催する。平日なのでなかなか参加は難しいと思うが、10名定員として開催する。
委員	申込みは電話でなければダメなのか。
事務局	そうだ。
委員	なかなか日中の平日に電話をできない方もいるし、メールやgoogleformでも申し込めると良いと思う。電話だと忘れてしまうこともあるので、このような方法もいかがだろうか。
事務局	今は電話で受付している。博物館は土日も開いているので土日でも受付可能である。
委員	定員があるものの場合、メールやgoogleformだと定員に達したことを把握して締め切るのが難しいので、電話受付にしているのでは。
事務局	そうである。定員に達したときにすぐ受付を締め切りできるようにすることと、申込やすさ両方を合わせて考えていかないといけないと思う。
(2) 令和7年度事業方針(案)について	
事務局	資料の内容について説明
会 長	令和7年度事業方針(案)について、説明いただいた。質問や意見等はあるか。
委員	調査研究というところについてお話ししたいのだが、博物館の学芸員の方はたびたび異動があるが、以前は学芸員で研究をされていた方もいるかと思うが、最近はどうな状況なのか。
事務局	在籍年数の長い職員は知識が深まり調査研究もできているが、数年で異動してしまう場合もあり、在籍年数が短いと調査研究というところまでいかない。

委員	来館者対応に追われる時間があるかと思うのだが、博物館は本来観光客を多く受け入れるというよりは地元の地域に関することを調査研究していくことが第一の目的だろうと思う。来館者数の増加に対応することも必要かとは思いますが、そこに追われすぎずに教育、研究あるいは児童生徒の郷土愛を深めていくということが大事であるということは、事業計画（案）に書いてある通りであると思う。そこをぜひお願いしたい。
委員	博物館は教育がベースとなっていると思うし、来館者を増やすということも重要であると思うが、旭川を知ってもらおうということも必要である。 カムイミンタラDMOは市を巻き込んでクラフトやアクティビティなどの体験の情報提供をするなど、様々な活動をしている。DMOと博物館のまが玉づくり、石うす体験などがコラボできないかなと思う。
事務局	検討したい。
委員	今年は菓子博があるので、博物館でも関わっていききたいという話があったと思うが、博物館の収蔵庫にあるお菓子の木型を使うのはどうだろうか。例えば菓子博入場者に博物館まで足を延ばしたら、石膏を使ってお菓子の木型で型抜きができますよとアピールするのはどうか。
事務局	菓子博の時期に合わせて博物館でお菓子にかかわる企画を何か実施したいと思っている。ぜひそういった体験イベントも考えたい。
委員	調査研究について理想を言えば、自前の学芸員が継続してできるのが一番だが、現実的には難しい。 博物館の枠を超えてしまうが、調査研究を盛り上げたいときに公募型の研究助成金を作って全国から募集している自治体もある。 公募の研究助成があると研究業界界限で非常に有名となる。研究者が地元の博物館で講演をしたり成果を発表したりなどする。そして全国の学会に行って研究テーマを発表するなど、その地の知名度が上がる。 そういったことも一つの手法かと思う。
委員	現在開催中の企画展「川と暮らし～あさひかわの人びとと川～」で展示されている写真のことで話がしたい。江丹別の渡し船にバスが乗っている写真である。江丹別で渡し船があったことはよく聞いており、バスが乗っていたことも聞いたことがあったが、企画展の会場で初めて写真を見た。 小さい頃、常磐公園の千鳥ヶ池に遊びに行っていたが、丸木舟があるのは見たことがなく、企画展の写真で初めて見た。 こういう貴重な写真については、企画展が終わった後もどこかに展示してはどうかと思う。
会長	博物館への期待を込めて、様々な意見が出たと思う。今日、委員のみなさんからあったいろいろな意見を踏まえて、来年度の計画を立てていただきたい。
(3) その他	
会 長	これまでの話全体を通しての中で、質疑の中で質問や意見はあるか。
委員	(意見・質問なし)
	<終 了>